

# みどりの丘

文責 二本松市立新殿小学校長 高松宏光



2023/06/04 09:33

## 「四者」の力で素晴らしい1学期に

今年度の始めに、「感謝する、感謝される児童」「感謝する、感謝される教職員」「感謝する、感謝される保護者」「感謝する、感謝される地域」をモットーに、四者の繋がりを大切にしていきたいと、お話しさせていただきました。おかげさまで、四者が同じ方向を向いて取り組むことができ、素晴らしい1学期にすることができました。心から感謝申し上げます。

学校は、学びの場です。学習や学校生活の中で、達成感や自己肯定感などプラスの学びもあれば、トラブルや悩みをかかえ、つまずくこともあります。しかし、それも大人になる過程の中で、大切な学びの機会なのです。先にあげた四者が、気軽に相談し合い、相手を思いやり、力を合わせることで、子どもたちをしっかり伸ばせる、素晴らしい学校になっていきます。今後も、どうぞよろしくお願いいたします。



【児童の意欲】



【教職員の指導】



【保護者の理解・協力】



【地域のバックアップ】

## 夏休み特集 ～ちょっとした参考に！～

### 読み手を引きつける作文を

「運動会」「修学旅行」「見学学習」等々、行事の後など、様々な場面で作文を書く機会があります。これから始まる夏休みももちろんです。そこで、作文のちょっとしたポイントについてお話します。まずご紹介したいのは、「ドラえもん」に出てくるのび太君の日記です。

### 朝起きて、昼寝して、夜寝た。

端的で、すっきりしていて、リズムよく、ある意味センスを感じます(笑)。しかし、ここには【事実】しか書かれていません。のび太君本人でなくても、近くにいたドラえもんでも書ける内容です。日記なので、【事実の記録】と割り切って考えればこれも有りですが、子どもたちには、もっと魅力的な表現力を付けさせたいものです。作文ならばなおさらです。

そこで、重要になってくるのが【思い(気持ち)】を書くということです。

運動会の作文を書かせると、「開会式では〇〇があって、100m走では3位になって、リレーでは優勝しました。とても楽しかったです。」と、【事実】の羅列の最後にざっくりとした【思い】が書かれた文章になりがちです。【思い】は、本人にしか分からない内容なので、そこを詳しく書かせたいものです。運動会のリレーなら、スタートラインに立つまでのドキドキの気持ち、先を走る子に追いつきたいと必死に走る気持ち、ゴールした時の喜びや悔しい気持ちなど、一番印象に残った場面の心の動きを詳しく表現させると、読み応えのある文章になるのです。

教え子の作文に《カップラーメンが出来るまで》と題した、お腹が空いてカップ麺にお湯を注ぎ、できあがりをお口にするまでの心の動きを書いたものがありました。3分少々時間のなかで、できあがりをお今や遅しと待ちわびる気持ちや、ほのかに匂ってくる美味しそうな匂いを嗅いだときの気持ちなど、思ったことが詳しく書かれた文章はとても面白く、クラスのみんなから絶賛されました。

作文のポイントは、【思い】を詳しく書くことです！さらに言うと、見たものだけでなく、聞こえたことや、匂い、手触りなど、五感を生かして書くこと。最後の工夫が、ひとひねりした魅力ある「題名(タイトル)」です。夏休みに、素敵な作文にチャレンジさせてみてください。



### 自分オリジナルの問題集をつくらう



テストやプリント問題など、やり終わったものの利活用です。間違った問題を切り取ってノートに貼っていきます。すると、自分が苦手なものが集まったオリジナル問題集ができあがります。その問題集を使う時は、別のノートや紙に解答を書くことで、問題集を繰り返し使えるようにします。これにより、難しかった問題を克服できるようになっていきます。

答えを見たり、教えてもらったりして「ああっ、分かった！」で終わってしまっはいいけません。「分かった！」を「できた！」にするまで繰り返し取り組むことが大切です。どうしても分からないところは、休みが明けたら先生にどんどん聞くようにアドバイスしてください。